

第4学年 道徳学習指導案

1 主題名 みんなが仲良くくらししていくために 2－(2) 思いやり・親切

2 主題について

差別や偏見が人を深く傷付け、地域の結び付きも壊してしまう様子を示し、よりよい人間関係を築くためには、相手の立場に立った励ましや援助が必要であることに気付かせ、相手に対する思いやりの心を育てようとする学習である。

3年生では、水俣病が起こる過程を概観的に学習している。そこで、4年生では水俣病の認定をめぐり、住民同士の差別や偏見があった事実を提示する。これによって新潟における水俣病が、環境問題であり、人権問題であることを伝えたい。

本主題では、相手の困難な状況や思いを想像させることが大切である。そこで、未認定患者に対する差別的な発言を中心に授業を構成する。ここでは、資料のような差別的な発言が深く人を傷付けることを子どもたちに実感をもってとらえさせることが必要である。さらに、相手のことを考え、自分からかわりをもって進んで親切な言動をしていこうとする心情を高めるような指導が求められる。

3 ねらい

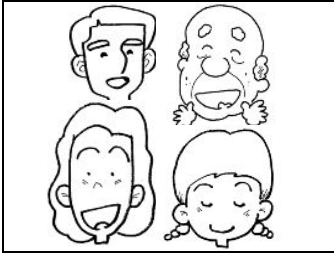
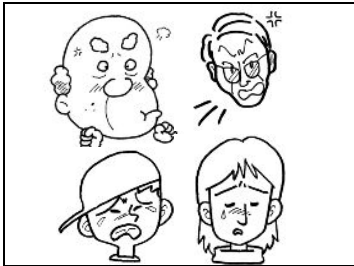
地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気づき、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

4 展開のための視点

- ・ 水俣病の発生によって、それまで強かった地域の結び付きが変化したことに着目させる。水俣病は、身体的な被害のほかに、長い間培われてきた地域の絆さえも奪った。それらは、人々の差別や偏見によるものであり、差別や偏見は人々を不幸にすることを理解させたい。
- ・ 人々がつながりをもち、幸せに暮らしていくためには、相手の立場を想像し、被害者に寄り添った言動をしていこうとする心情をはぐくむことが必要である。差別や偏見の対象となった人の思いを、少しでも実感をもってとらえることができるようにロールプレイを行う。
- ・ 終末では、地域の結び付きを取り戻すために活動する旗野さんを紹介し、実践意欲を喚起したい。旗野さんがお地蔵さんにこめた願いを受け止めることで、問題の解決は世代をこえて受け継がれることに気付かせたい。

5 展開

本時前に、教師による全文範読や児童の全文通読を行う。事前に「今でもこの病気で苦しんでいる人がいる。少しでもその苦しみが癒されるにはどうすればよいか。」について道徳の時間に考えることを予告しておく。

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
<p>○当時の「阿賀野川のほとり」の様子を確認する。</p>  <p style="text-align: center;">資料 1</p> <p>○水俣病に起因する差別発言によって地域が結び付きを失ったことを確認する。</p>	<p>◇川によって、人々が強く結び付いていた様子を強調する。</p> <p>◇昔、小さな村はどんなだったか資料中の言葉を抜き出させる。</p>	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が笑っている挿絵（資料 1） ・キーワードを挿絵横に板書 	5
<p>□ 強い絆で結ばれていた村は、水俣病によってどうなってしまいましたか。</p>			
 <p style="text-align: center;">資料 2</p> <p>●水俣病により、生活の一部だった川の恵みを受けられなくなり、人々の心は川から離れていった。また、水俣病の認定・未認定による差別や偏見によって村人たちの絆も壊れていった。</p> <p>○本時の課題を確認する。</p>	<p>◇資料 1、2 を対比してとらえることができるように黒板掲示する。(板書計画参照)</p> <p>◇川の恵みから人々を遠ざけた水俣病、病気への差別や偏見が地域の結び付きを壊したことを強調する。</p>	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が怒り、泣いている挿絵（資料 2） ・キーワードを挿絵横に板書 	
<p>□ どうすれば、もとの仲の良かった村にもどれるか、みんなで考えましょう。</p>			

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○ロールプレイ 1 で、陰口を言われた患者たちの気持ちを実感し、感想を発表する。			10
□ 手足が痛く、目が見えにくいなどの苦しみの上に、さらに陰口を言われたらどんな気持ちになるのか、ロールプレイで確かめてみましょう。感じたことを発表しましょう。			
<p>ロールプレイ 1</p> <p>A：病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかった。この痛みが水俣病でないならなんなんだ！</p> <p>B：認められなかったのか！？お前はニセ患者だ。お金がほしいだけなんだろ！</p>	<p>◇最初に教師が師範する。 ペアで交替しながら役割演技を行う。</p> <p>◇Aの立場でどんなことを感じたか発表させる。</p> <p>◇ロールプレイでの実感を、陰口を言われた人々の思いと重ね合わせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート配付 ・A、Bの台詞カードを黒板掲示 ・Aとして感じたことを板書 	
●患者たちは、「ニセ患者」「お金がほしいだけ…」などの陰口を言われ、心の痛みを受け、悲しくつらい思いをした。			
○もとの仲が良かった村にもどすために、旗野さんがとった行動の意味を考え、発表する。	◇旗野さんは、どのような方法で村を再生しようとしたか問いかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・旗野さんの写真掲示 ・お地蔵さんの写真掲示 	10
□ 旗野さんは、お地蔵さんを建てて、もとの仲がよかった村にもどそうとしました。では、お地蔵さんを建てるとみんなの仲が良くなるのでしょうか。旗野さんは何のためにお地蔵さんを建てたのでしょうか。			
●村の再生のためには、お地蔵さんをシンボルに、村の人々が陰口をやめて、互いの立場を理解し、助け合わなければならない。	◇お地蔵さんを建てただけでは、問題の解決にはならないことを意識させるように、切り返しの発問を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発問例「どうして、お地蔵さんを建てると、仲良くなるの？」「お地蔵さんが何をしてくれるの？」 	

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○旗野さんの言葉（プリント）の朗読を聞き、相手の立場に立った言動の必要性に気付く。またロールプレイ2を行い、相手の立場に立った言動とはどういうものか体験する。	◇差別や偏見による言葉かけでなく、相手を思いやった言葉かけの大切さを強調する。	・資料の空欄に当てはまる「旗野さんの言葉」を配付する。	15
<input type="checkbox"/> 旗野さんが言う相手のことを思った言葉がけとはどんな言葉でしょうか。 <input type="checkbox"/> どんな言葉がけをすれば、もとの仲の良かった村にもどるのでしょうか。ロールプレイで確かめてみましょう。感じたことを発表しましょう。			
ロールプレイ2 A：病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかった。この痛みが水俣病でないならなんなんだ！ B：	◇ワークシートに、Bの言葉を考え記入させる。 ◇ペアで交替しながら役割演技を行う。 ◇Bの声かけに対し、どんなことを感じたか発表させる。 ◇言葉だけでなく、相手のことを考えようとする気持ちが大切であることに触れる。	・指名し、いくつかのペアに実演させる。 ・Bの言葉と対応してAの感想を板書する。	
●強い絆で結ばれていた村にもどるためには、誰もが相手の立場に立って考え、共感的な言葉かけをすることが必要である。			
○次の中から相手を選んで、自分の思いや考えを手紙に書く。 ア 水俣病と認められずに陰口を言われていた人 イ 陰口を言っていた人 ウ 旗野秀人さん		・3人の絵・写真掲示 ・手紙用便せん配付	5
<input type="checkbox"/> 自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。			
●差別や偏見に憤り、相手を思いやった言動の大切さが分かる。さらに行動する旗野さんに思いを寄せる。	◇時間があれば、選んだ理由も書かせたい。		

《評価》

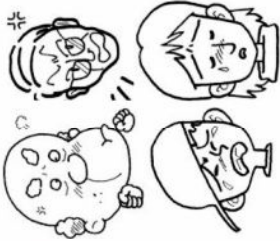
- ・ ロールプレイ2で、相手の立場に立って考え、共感的な言葉かけができたか。
- ・ ①差別や偏見への憤り ②患者への思いやり ③旗野さんの行動に対する賞賛のいずれかを手紙に表すことができたか。

【資料】

- ・読み物資料 「お地蔵さんにこめられた願い」
- ・ワークシート ロールプレイ用「お地蔵さんにこめられた願い」
- ・ワークシート 終末まとめ用
- ・本文挿入資料 「旗野さんの言葉」

みんなが仲良しくらしていくために

《ロールプレイ1》



- ・陰口 ・魚×
- ・仕事× ・きずな×
- ・バラバラ

A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ。

『Bの言葉』

B 認められなかったのか。お前はセシ患者だ。お金がほしいだけなんだから！

『Aの気持ち』

- ・とても悲しい
- ・腹が立つ
- ・ひどい。仲間なのに。



旗野秀人さん

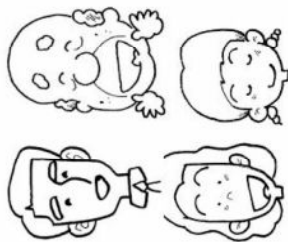


阿賀のお地藏さん

村のきずなをとりにどす

シンボル

《ロールプレイ2》



- ・たくさんのめぐみ
- ・おすそわけ
- ・たくさんの仕事
- ・強いきずな

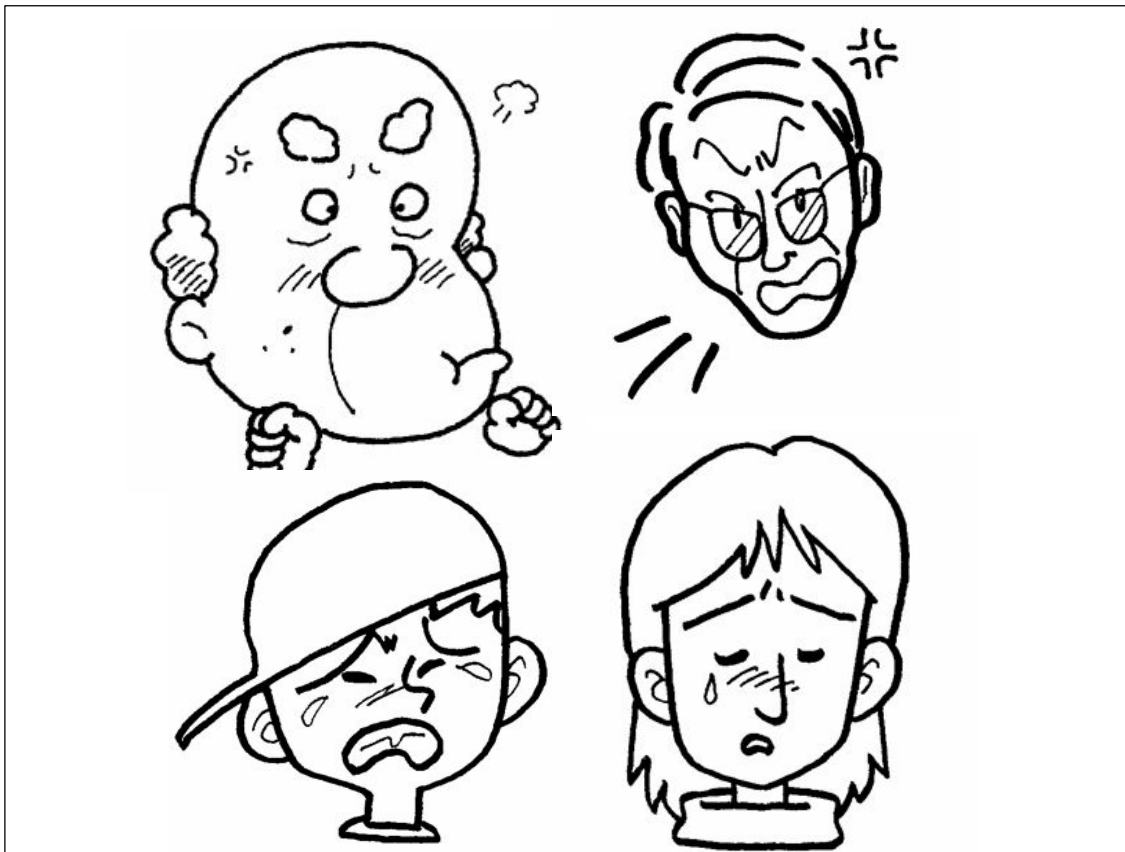
『Bの言葉』

・大丈夫だよ。ぼくは君を信じているよ。
 ・もう一度病院に行ってみよう。ぼくもついて行くよ。
 ・君が悪いんじゃない。ぼくが助けてあげるよ。

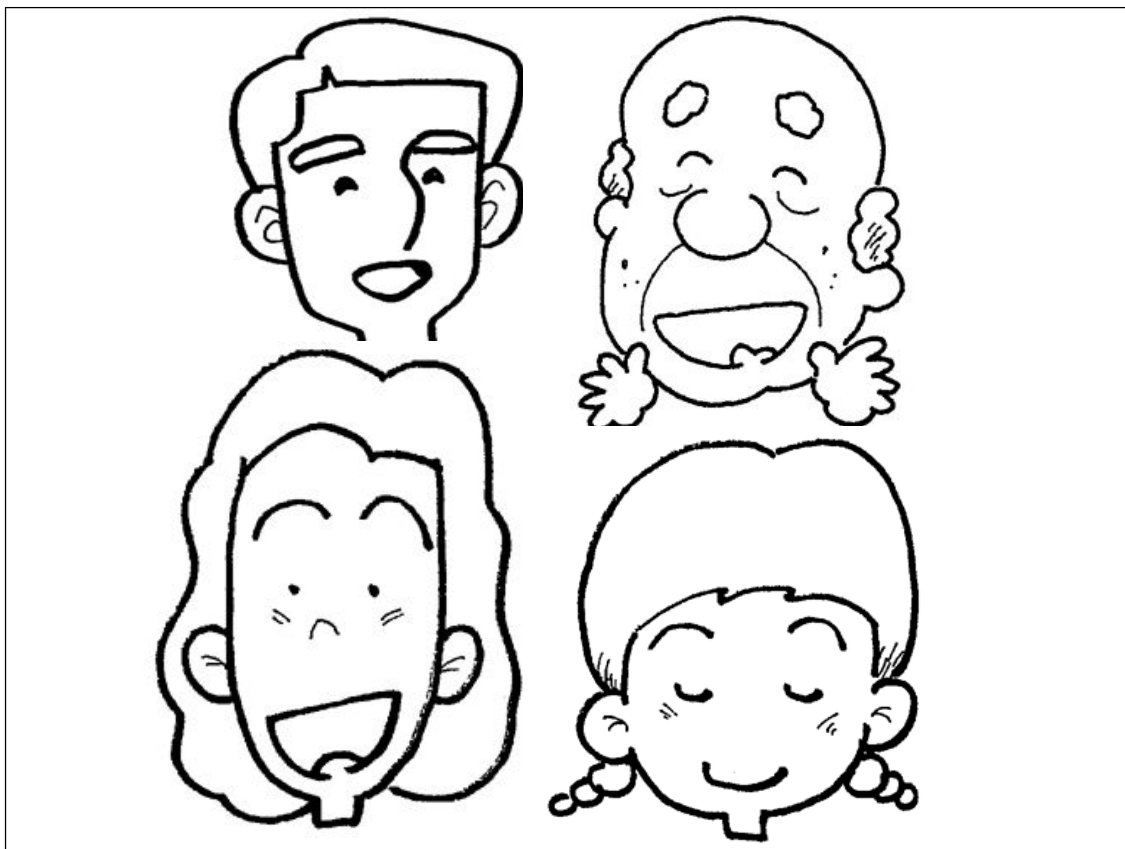
『Aの気持ち』

- ・信じてくれる人がいてうれしい。よかった。
- ・ありがとう。とても心強いよ。
- ・悲しい気持ちがなくなった。君がいてよかった。

○ 4 年生揭示資料



< 揭示資料 1 >



< 揭示資料 2 >

< 掲示資料 3 >



旗野秀人さん

1950年5月阿賀野市（旧安田町）生まれ。

家業の大工を継ぎながら、新潟水俣病未認定患者支援運動に取り組む。新潟水俣病安田患者会事務局。

「冥土のみやげ企画」を立ち上げ、CD、映画、絵本など患者支援のための活動を全国的に展開する。

映画「阿賀に生きる」の仕掛け人。

2006年、新潟水俣病を題材とした初の絵本「阿賀のお地蔵さん」を発行。阿賀のお地蔵さん（千唐仁）を建てる。

阿賀のお地蔵さん（千唐仁）

阿賀野市千唐仁に建つお地蔵さん。

「冥土のみやげ企画」が中心となり、熊本県水俣市より運ばれた石によって造られた。水俣市には阿賀野川の石で造られた「不知火の地蔵さん」がまつられ、「阿賀のお地蔵さん」と兄弟地蔵とされている。



左：阿賀のお地蔵さん

右：地域に古くからある虫地蔵

7 資料

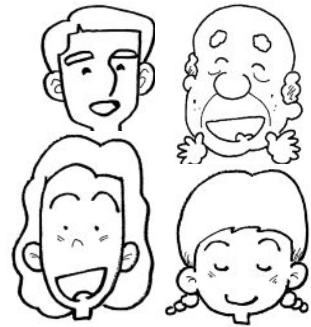
○読み物資料

お地蔵さんにこめられた願い

阿賀野川のほとりに、小さな村がありました。

昔、村は、たくさんの船が行きかうにぎやかなところでした。村にはたくさんの船頭せんとうがいました。船頭は、阿賀野川の砂利じやりをとって運んだり、上流から下流へ、下流から上流へと、荷物を運んだりする仕事をしていました。川岸には何十そうもの船がつながれていたといいます。川には、たくさんの仕事がありました。

川は、人々のくらしにも、たくさんのめぐみをもたらしました。きれいな川の水は飲み水となりました。毎日のように川魚をとって食べました。たくさん魚がとれた日は、ご近所におすそわけも忘れませんでした。上流から流れてくる肥えた土のおかげで、畑の作物も良く育ちました。畑でとれた野菜やさいが、魚のお返しに配られることもありました。阿賀野川の水でいれたお茶は大変おいしかったといいます。雨で仕事に出られない日は、よくご近所で集まって、お茶を飲みながら、楽しいお話をしたそうです。川では、せんたくも行いました。子どもたちも毎日川で遊びました。このように、村の人たちは、阿賀野川のめぐみを受けながら、強いきずなでむすばれ、仲良くくらしていました。



ところが…。

1965（昭和 40）年、阿賀野川の近くに住む人たちの中に、水俣病みなまたびょうという病気にかかっている人がたくさんいることが発表されました。

水俣病は、体に害のあるメチル水銀によっておこる病気です。手足がしびれてよく動けなくなったり、頭痛ずっうや目の見える範囲はんいがせまくなったりするおそろしい病気です。そして、この病気は一生治ることがないのです。

阿賀野川の上流に、ひとつの工場がありました。工場は、メチル水銀の入った排水はいすいを、毎日川に流し続けました。すると、川にすむ魚の体に、メチル水銀がたまっていきました。村の人たちは、そんなことは知らずに、川の魚を毎日食べ続けました。そのため、人々の体にも、メチル水銀がたまっていきました。長い時間をかけて人の体にたまったメチル水銀によって、村では、たくさんの人たちが、水俣病になってしまいました。

病気になった人には、工場から補償金ほしょうきんが支払しはらわれました。病気の原因げんいんをつくったのは工場だからです。でも、水俣病と認められたのは、特に症状しょうじょうが重いごく一部の人たちだけでした。だから病院に行っても、水俣病だとは認められない人がたくさんいました。

「こんなに手足がしびれ、ものも見えにくいのに、どうして水俣病と認めてもらえないんだ…。」

水俣病と認めてもらえなかった人たちは、とてもくやしい思いをしました。そんな中、こんな陰口かげぐちを言う人たちがあらわれたのです。

かんじゃ
ニセ患者！

いた
痛くもないのに、
患者のふりして…。

お金がほしい

だけなんだろう！

患者は、体の痛みいたをもっています。そのうえ、こんな陰口かげぐちまで言われ、心も深く傷きずついでいきました。

もう川で魚をとることはありません。子どもたちも川で遊ばなくなりました。阿賀野川での仕事もへり、村の人どうしで話すことも少なくなりました。

「あの人も、私の陰口を言っているかもしれない…」

そんな不安がよぎります。強いきずなで結ばれていた村の人たちの心が、いつしかバラバラになってしまったのです。

「みんな苦しんでいるのに、なぜ、傷きずつけ合うのだろうか。」

村の近くに、旗野秀人はたのひでとさんという大工さんが住んでいました。旗野さんは、水俣病のせいで、バラバラになってしまった村の人たちの心を、もとにもどしたいと考えるようになりました。でも、どうしたら、もとの仲の良かった村にもどせるのでしょうか。

旗野さんは、お地蔵じぞうさんをつくることを考えました。お地蔵じぞうさんをほる石は、同じ病気で苦しむ人がいる熊本県水俣市くまもとけんみなまたしから運ばれました。そして、とてもやさしい顔のお地蔵さんができました。お地蔵さんは「阿賀のお地蔵さん」と呼よばれるようになりました。旗野さんは言います。



「阿賀のお地蔵さん」には、お団子だんごやお花はななどのお供えものがたえる日はないそうです。

「お地蔵^{じぞう}さんにこめられた^{ねが}願い」

4年 組 名前

<ロールプレイ 1>



A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B 認められなかったのか！
お前はニセ患者だ。
お金がほしただけなんだろう！



あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

<ロールプレイ 2>



A 病院に行ったけど、水俣病と認めてもらえなかったよ。この痛みが水俣病でないなら何なんだ…。

B



あなたがAさん役のとき、どんなことを感じましたか。

○ワークシート：終末まとめ用

あなたの思いや考えを手紙であらわしましょう。

だれに手紙を書きますか。あなたが手紙を書きたい人を下の3人からえらんで、記号を○でかこみましょう。えらんだら、手紙を書きはじめましょう。

ア 水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たち へ

イ かげ口を言っていた人たち へ

ウ 旗野秀人さん へ

Blank lined area for writing a letter.

4年組 名前

○本文挿入資料：旗野さんの言葉

わたし
私たちは、もとの仲の良かった村に戻すために、お地蔵さんをたてることを
考えました。阿賀のお地蔵さんです。

でも、お地蔵さんが、ふしぎな力で、昔のように仲の良かった村に戻してく
れるわけではありません。村の人たちがお地蔵さんを見て、変わっていくしか
ないのです。相手の痛みを自分の痛みのように感じ、相手のことを思った言葉が
けができるようになることが大切だと私は思います。